

大地震関係ニュース（青森民医連）24



2011. 3. 31 16:00
青森民医連 事務局

地震・津波発生後の皆さんのご奮闘に敬意を表します。
県連内の状況を取り急ぎお知らせ致します。
全国の状況は、全日本からのニュースをご参照下さい。

募金額 495,184 円

宮城県民医連支援 帰任・着任 続々と

3/26 午後、県連第 3 次支援隊が無事に帰任しました。

健生病院の正面玄関で出迎えの人々の拍手をうけ、隊長の入江医師をはじめ 5 名のメンバーは全員元気でした。

今回の支援では、町内・避難所など直接地域に入ったこと、職員のメンタルサポートに

ついて一定の話し合いがもたれたことなどが特徴点です。(津軽保健生協ニュース No. 8 より)



関谷 修 Dr

宮城で被災した仲間の心のケアへ

全日本民医連の精神医療委員会の要請を受けて、4/4～8 の日程で県連第 5 次医療支援隊を派遣することとなりました。

チームは、関谷 Dr(藤代健生病院副院長)・高木友樹さん(藤代健生病院 OT)・佐藤貢さん(藤代健生病院 Ns)・矢口貴之さん(ホームあじさい介護福祉士)の 4 名で編成します。

今回は「こころのケア」の支援が中心です。奈良の吉田病院チームと合同で松島に入ることが検討されています。松島医療生協の居宅デイサービス施設は今回の震災・津波で、職員・利用者双方から犠牲者を出しました。残った職員は自らも被災しながら、懸命に業務にあたっていますが、心身ともに大変厳しい状況です。地域住民・職員の「こころのケア」の支援のあり方を検討していくのが今回の支援隊の役割です。

4/4(月)の午前 11 時に、藤代健生病院を出発します。出発前に短時間で送りだしの集会を行います。(津軽保健生協ニュース No. 8 より)

藤田薬剤師から現地（つばさ薬局・松島店）支援報告

(3/30) 今日も松島店の支援でした。一包化で手まきの毎食後 90 日分がありました。辛かったです。

多賀城店は処方せん 650 枚で待ち時間は 80 分とのことでした。「そろそろ普段通りの待ち時間や、薬歴書がある状態に戻していきたい」と金田先生(つばさ薬局社長)が話していますが、今の枚数と分割調剤での投薬が続く限りはなかなか厳しいと思います。現在も震度 3～4 程度の余震が続いていて、被災者の方は不安を抱えています。

一日でも早く今の生活が改善されてほしいです。(あおり健康企画ニュース No. 6 より)

